

# Economic Indicators

発表日: 2023年9月20日(木)

## 貿易統計(2023年8月)

～自動車を除く実質輸出は弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比								
22年	1月	▲ 22,201	▲ 8,756	9.5	39.0	▲ 4.6	▲ 1.1	9.7	▲ 10.5	4.7	4.6	20.9	3.8
	2月	▲ 7,115	▲ 10,166	19.1	34.6	2.8	5.0	2.0	6.1	▲ 0.8	6.0	13.0	▲ 5.4
	3月	▲ 4,649	▲ 9,898	14.7	31.9	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.0	2.9	▲ 0.3
	4月	▲ 8,549	▲ 14,526	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5
	5月	▲ 23,661	▲ 18,434	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1
	6月	▲ 13,750	▲ 19,452	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0
	7月	▲ 14,219	▲ 21,918	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2
	8月	▲ 27,904	▲ 22,500	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,992	▲ 20,478	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,715	▲ 22,529	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,319	▲ 17,829	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,586	▲ 18,345	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,581	3.5	17.6	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.5	▲ 6.6	▲ 3.1
	2月	▲ 9,199	▲ 12,247	6.5	8.5	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.8	▲ 6.3	0.1	▲ 8.7
	3月	▲ 7,588	▲ 12,011	4.3	7.4	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 10.7	▲ 2.5	▲ 3.1	▲ 3.6	▲ 0.8
	4月	▲ 4,364	▲ 10,052	2.6	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.4	▲ 12.6	▲ 0.3	▲ 7.6	▲ 3.5	4.2
	5月	▲ 13,821	▲ 7,905	0.6	▲ 9.8	▲ 6.4	▲ 4.1	0.2	▲ 12.5	▲ 5.1	▲ 5.1	▲ 2.3	▲ 5.6
	6月	392	▲ 5,777	1.5	▲ 12.9	▲ 4.8	▲ 3.9	0.0	▲ 11.4	▲ 5.9	▲ 10.7	9.9	▲ 5.1
	7月	▲ 663	▲ 6,002	▲ 0.3	▲ 13.6	▲ 3.3	2.5	▲ 0.3	▲ 10.6	▲ 4.4	▲ 14.3	20.1	▲ 7.9
	8月	▲ 9,305	▲ 5,557	▲ 0.8	▲ 17.8	▲ 5.3	▲ 3.6	1.4	▲ 10.4	▲ 7.2	▲ 11.0	6.8	▲ 7.7

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○貿易赤字(季節調整値)は高水準の赤字が続く

財務省より発表された23年8月の貿易統計では、名目輸出が前年比▲0.8%、名目輸入が同▲17.8%、貿易収支は▲9,305億円の赤字(事前の市場予想: ▲6,431億円の赤字)となった。季節調整値で見ると、名目輸出が前月比▲1.7%、名目輸入が同▲2.1%とどちらも減少し、貿易収支は▲5,557億円の赤字となった。資源価格が落ち着いていたことから輸入の減少傾向が続くものの、輸出も頭が重い状態が続いており、貿易赤字は高水準となっている。なお、これまで輸入物価の下落に伴い速いペースで名目輸入は減少してきたが、足元の原油価格は再び上昇基調を強めていることから、年末にかけて減少ペースを緩める見込みである。季節調整値で貿易収支が黒字に転じるには、まだ時間がかかるだろう。

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は、8月は前月比▲5.8%と3か月ぶりの減少となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。自動車輸出の回復が牽引して6月(前月比+3.6%)、7月(同+1.9%)と持ち直しの動きがみられたものの、8月は大きく落ち込んでおり、輸出が回復基調に転じたわけではないことが示されている。自動車以外の輸出は減少傾向に歯止めがかかっておらず、実質輸出は一進一退で推移していると判断できる。品目別では、このところ底入れがみ

られた一般機械で、8月は6月、7月の持ち直しを帳消しにする減少幅となり、全体を押し下げたことが目立つ。海外での設備投資需要の減退を反映している可能性があるだろう。今後は挽回生産・輸出の追加的な押し上げ寄与が縮小することで自動車輸出が増加ペースを鈍化させていく可能性が高い中、自動車以外は引き続き低調な推移が予想される。先行きは、景気減速が予想される米国向け、欧州向け輸出が抑制される可能性が高いことに加えて、中国経済の低迷や日中両国間の政治的要因による輸出規制により、中国向けも持ち直しにめどが立たない。実質輸出は当面弱い動きが続くだろう。

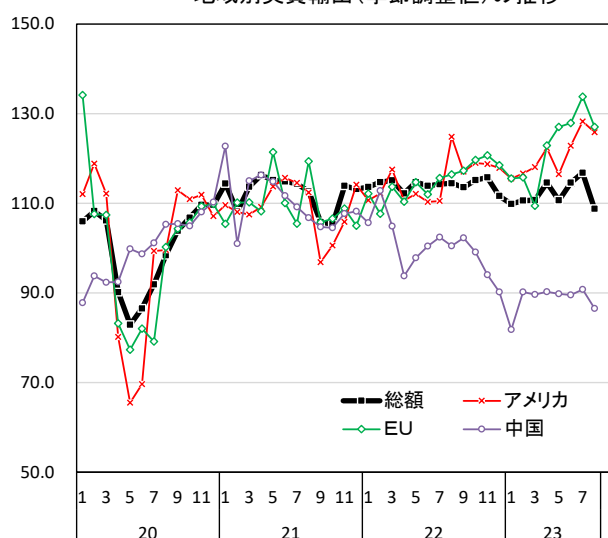
## ○地域別実質輸出の動向

物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）を地域別にみると、米国向けが前月比▲1.9%（7月：同+4.4%）、欧州向けが同▲5.1%（7月：同+4.6%）、中国向けが同▲4.7%（7月：同+1.4%）といずれの地域も減少に転じた。

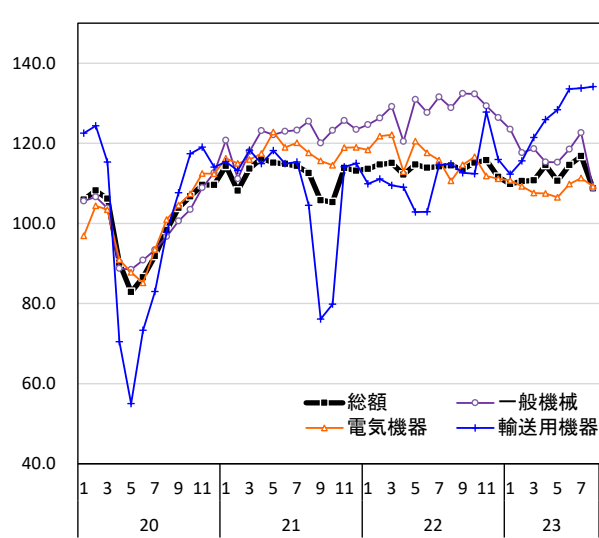
米国向け、欧州向けは、単月では大幅な落ち込みとなったが、一般機械や電気機器が前月までの反動で減少に転じた面が大きい。7-8月平均でみれば、4-6月期対比で米国向け+5.4%、欧州向けは+3.5%上回っており、両者ともウェイトの大きい自動車輸出の増加が支えとなって、均せば持ち直し傾向で推移している。もっとも、自動車を除けば米国向け輸出、欧州向け輸出ともに減少傾向が続いている点には注意が必要だ。米国、欧州ともに国内の財需要は減速しており、製造業部門の景況感は低迷が続いている。加えて、今後はこれまで積みあがっていた自動車需要も一巡することで、自動車輸出の回復も鈍化する可能性が高い。先行きは米国向け、欧州向けもペースは抑制される可能性が高いだろう。

中国向けは、中国経済の低迷から底這いの動きが続いてきたが、今月は一段と水準を切り下げた。一般機械やその他財輸出が下振れたことが主因だが、これらは前月までの反動の側面もありそうだ。ただし、これに加えて、7月末頃より中国に対する先端半導体製造装置の輸出管理規制が施行されたことや、8月からは中国が日本の水産物に対する輸入厳格化を行っていることなど、日中間の政治的要因による下押しもあったと考えられる。先行きについても、中国経済の持ち直しにめどが立たない中でこうした政治的要因も絡み、中国向け輸出は弱い動きが続くだろう。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。